脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.70

**マリア・スタンチェバ**

ヴァリディティ財団および独立した専門家ネットワーク（NIE）の協力による

From Maria Stancheva[[1]](#footnote-1)

to the Committee on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD)

この意見は、独立した専門家ネットワーク（NIE: Network of Independent Experts、ブルガリアに拠点を置くNGO）に2回に分けて提供されたものです。最初の部分は文書として提供され、編集上の変更は句読点のみです。後の部分は、最初の1日後に電話により口頭で提供されたものです。これらはヴァリディティ財団（Validity Foundation）の支援を受けて、NIEによって翻訳されました。他の編集上の変更（翻訳を除く）は、この文章にはありません。

こんにちは、私はソフィアのマリア・スタンチェヴァ、44歳です。

2006年、私は元夫からの殴打をきっかけに、妄想型統合失調症と診断されました。結婚生活は15年続き、その後2020年、パンデミックが起こり、私は離婚しました。この間、ストレスやプレッシャー、精神的・肉体的虐待の中で生きてきました。私には2人の子どもがいて、母や姉(訳注　原文はsisterなので妹とも訳せる)の助けを借りて面倒を見ています。

このような診断を受けて生きていくのはとても大変なことです。社会は、このような精神障害者を簡単に受け入れてはくれません。

**このような人たち**には、虐待者がいない家庭的環境が必要です。

私は現在寛解しており、子どものためにもっと良くなりたいと思っています。

私は離婚後、別人のようになりました。仕事をし、責任感があり、落ち着いています。これは私にとって重要なことです。

私はまだ、自分が「クレイジー」でないことを仕事で証明しなければなりません。

追加意見（訳注　この追加意見は、マリア・スタンチェヴァさんからの電話を受け、それに基づいた専門家ネットワークのものと思われる）

障害のある人には愛と平和が必要であり、一層刺激するような人は必要ありません。施設（医療センターやホーム）に入れられた人たちは、傷ついたと感じる以上に、奪われたと感じています。施設そのものが心を傷つけているのです。

人にとって最も重要なことは意見を持つことですが、診断された人は抑圧されています。そのような人々はいつも診断のことでがみがみ言われ、意見を言う権利を奪われています。(これはマリアの元夫がやっていたことで、彼は常に診断を理由に彼女の意見する権利を奪っていました)。

施設に入所している人も含めて、障害のある人は意見を持っていて、それを共有しています。しかしその意見は考慮されないのです。たとえ、その後に他の人が違うことを言うとしても、誰もが自分の意見を述べることができるはずです。

施設は個性と生きる権利を奪っているのです。

マリアは、2度目の精神科治療を受けたとき、医師から「3度目の危機を迎えたら、永久に施設に入れなければならない」と言われたと言います。マリアは、2度の精神科入院で子どもたちを失ってしまうのではないかと不安になったと言います。15年間も離婚を待った理由のひとつは、当時の夫に子どもを奪われるのではないかという恐怖心だったと考えています。

注：この投稿で示された意見はマリアのもので、マリアが（ガイドライン案の）協議プロセスに参加することを可能にした団体の意見を必ずしも反映するものではありません。

（翻訳：佐藤久夫、岡本 明）

1. 著者は障害のある人である。 [↑](#footnote-ref-1)